

# 富崎

## 海と生きる人々

# 新地区展

## vol.6

地域の歴史や文化に親しんでいただくため、市内の文化財を紹介する「新・地区展」。市内10地区を1地区ずつ、シリーズで紹介します。



### 平成29年10月14日(土)～11月26日(日)

開館時間 午前9時～午後4時45分  
(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日

観覧料 一般：400円(300円)  
小・中・高校生：200円(150円)

※( )内は20名以上の団体料金 ※市民割引料金あり

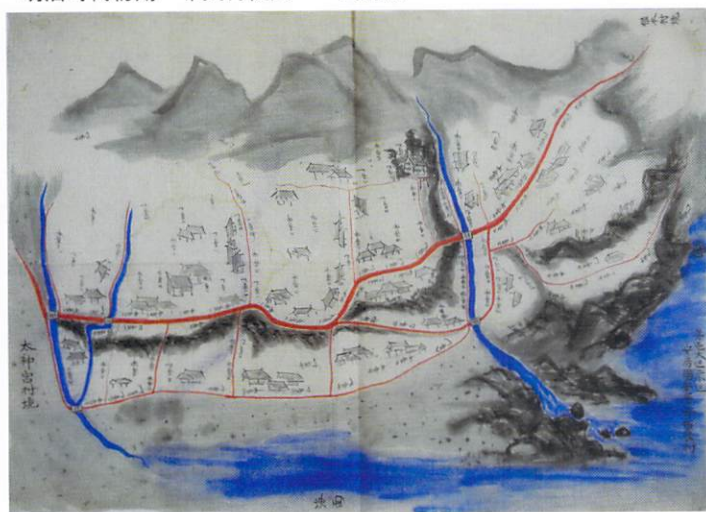
### 館山市立博物館 本館

千葉県館山市館山351-2 城山公園内



文化7年(1810)相浜村絵図(部分) 相浜漁業協同組合蔵

明治時代初期 布良村絵図 当館蔵



市内10地区の歴史と文化財を紹介していく「新・地区展」シリーズの第6回として、富崎地区を取り上げます。

「富崎」という地名は、天富命が上陸した岬であるという安房開拓神話に基づいて、明治22年(1889)に相浜村と布良村が合併した際に付けられた村名です。太平洋に面した山際にある両村は耕地が少なく、海の恵みを生活の糧としてきました。相浜は西岬地区伊戸までの平砂浦沿岸を、布良は布良瀬という魚の豊富な磯根を漁場とし、江戸時代以降、漁業を生業とする多くの人々が暮らしてきました。

江戸時代の末期には、東京湾への外国船の侵入に対する警備のために砲台が設置され、明治時代から昭和の終戦までは監視所やレーダー基地が置かれるなど、東京湾の入口に立地することから首都防衛の役割も担いました。明治時代には、地域有力者の強い指導力により、アワビ漁収益の共同資産化や、貯蓄や生命保険加入の推進が行われ、人々の生活も近代化していきました。

漁村として海の恵みを享受しながらも、海への恐れと常に背中合わせとなる富崎地区で、どのような暮らしが紡がれてきたのか、残されてきた資料を通して富崎地区の歴史と文化財を紹介します。

### 関連事業

#### ◆展示解説会

日時 10月28日(土)、11月25日(土)  
ともに13:30~14:30  
会場 市立博物館本館 企画展示室  
解説員 担当学芸員

#### ◆第37回「わたしの町の歴史探訪」

日時 10月29日(日) 13:00~16:00  
※荒天の場合は11月5日(日)  
場所 富崎地区(相浜・布良)  
参加費 200円  
申込方法 電話で市立博物館本館まで申込み。  
定員はありません。  
申込締切 10月25日(水)



寺崎武男画「安房開拓神話 安房渡航の図」 布良崎神社蔵



〈交通〉 ◆JR館山駅東口よりバス約5分。  
(洲崎方面行き「城山公園前」下車)  
◆富浦ICからお車で約15分。  
城山公園駐車場をご利用下さい。

### 問い合わせ 館山市立博物館 本館

千葉県館山市館山351-2  
TEL 0470-23-5212 FAX 0470-23-5213  
<http://www.city.tateyama.chiba.jp/hakubutukan/>